

小倉駅新幹線口地区整備構想（平成27年8月改訂）

1. 小倉駅新幹線口地区の概要と背景	・・・p1
2. 構想見直しの方向性と方針	
(1)方向性と方針について	・・・p1
(2)ゾーニングの見直し	・・・p1
3. 具体的な取組み	
(1)新たな集客施設	・・・p3
(2)周辺施設との連携による魅力づくり	・・・p4
(3)歩行者ネットワークの強化・充実	・・・p4
(4)歩行者ネットワークの形成	・・・p5
(5)周辺の交通アクセス環境を考慮した車両交通対策	・・・p9
(6)交通アクセス環境の向上に向けた対策	・・・p9
(7)都市再生に向けた民間活力の導入	・・・p11
4. 今後の取組み	・・・p12

「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

1. 小倉駅新幹線口地区の概要と背景

小倉駅新幹線口地区については、平成3年の小倉駅北口地区整備構想(平成16年構想見直し)や平成17年の北九州市都市計画マスタープラン小倉北区構想、平成20年の中心市街地活性化基本計画(小倉北区)等に基づき、官民が一体となって活性化に向けた多様な事業に取り組んできた。

これまでの取り組みにより、国道199号などの都市基盤や、西日本総合展示場などのコンベンション施設の整備、近年では、小倉記念病院の移転、あさの夕風公園、漫画ミュージアムのオープンなどにより、新たな人の流れや賑わいが生まれており、さらに、北九州スタジアムが平成29年3月にオープンする等、若者をはじめ幅広い世代の集客のきっかけづくりになるものと期待されている。

また、本地区に300万人の集客を目指し、平成26年に都心集客アクションプランを策定し、平成27年4月に、さらなる賑わいづくりのため、プランの一部改訂を行った。プランでは、北九州スタジアムやその周辺エリアにおいて、関係機関や市民団体等と連携し、サッカーなどの試合が開催されていない時でも、多くの市民や近隣地域の方々が楽しめる集客イベントを開催することとしている。

このような中、本地区の更なる活性化や集客力向上のため、今後の土地利用の方向性などを見直した。

2. 構想見直しの方向性と方針

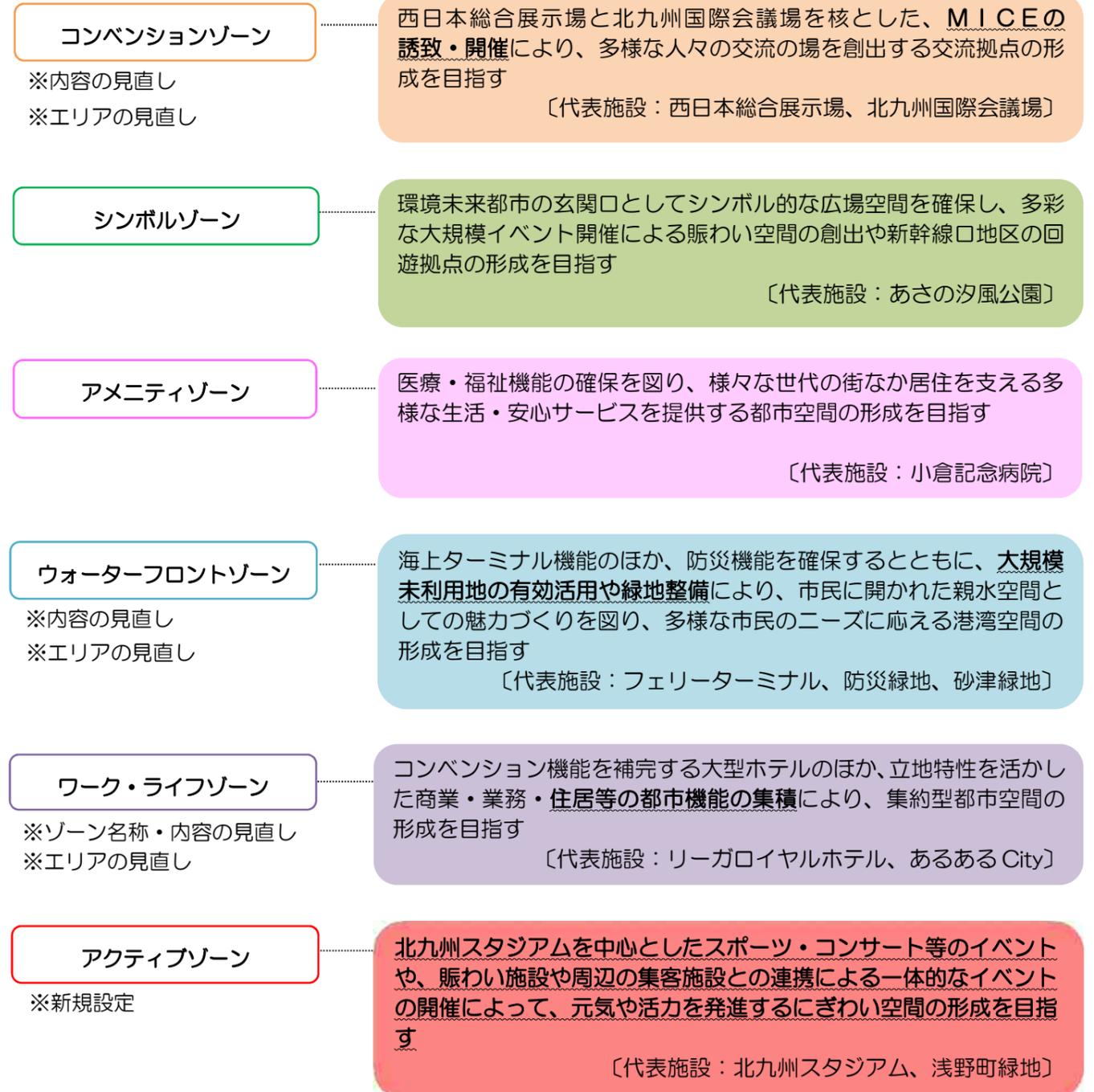
(1) 方向性と方針について

都心集客アクションプランと連携し、本地区の活性化、集客力向上を図るため、方向性と方針を設定した。

方向性	方針(概要)
まちが「にぎわう」	<ul style="list-style-type: none"> ■文化・スポーツを通して夢と感動を生み出す空間の形成 ■身近な自然とふれあい、憩い、集うことができるオアシス空間の形成 ■海とのふれあいや関わりを大切にしたい親水空間の形成 ■都市機能が複合的に連携し、さらなる賑わいの場の形成
まちで「交流する」	<ul style="list-style-type: none"> ■都心地区の活性化に寄与するコンベンション機能の拡充 ■立地特性を活かした商業・業務・サービスなどの都市機能の集積 ■都心地区の集客力を強化する交通環境の形成
まちで「暮らす」	<ul style="list-style-type: none"> ■多様な生活・安心サービスを提供する生活支援拠点の形成 ■地区の集客力・魅力向上に向けた官民連携による取り組みを推進 ■コンパクトシティの実現

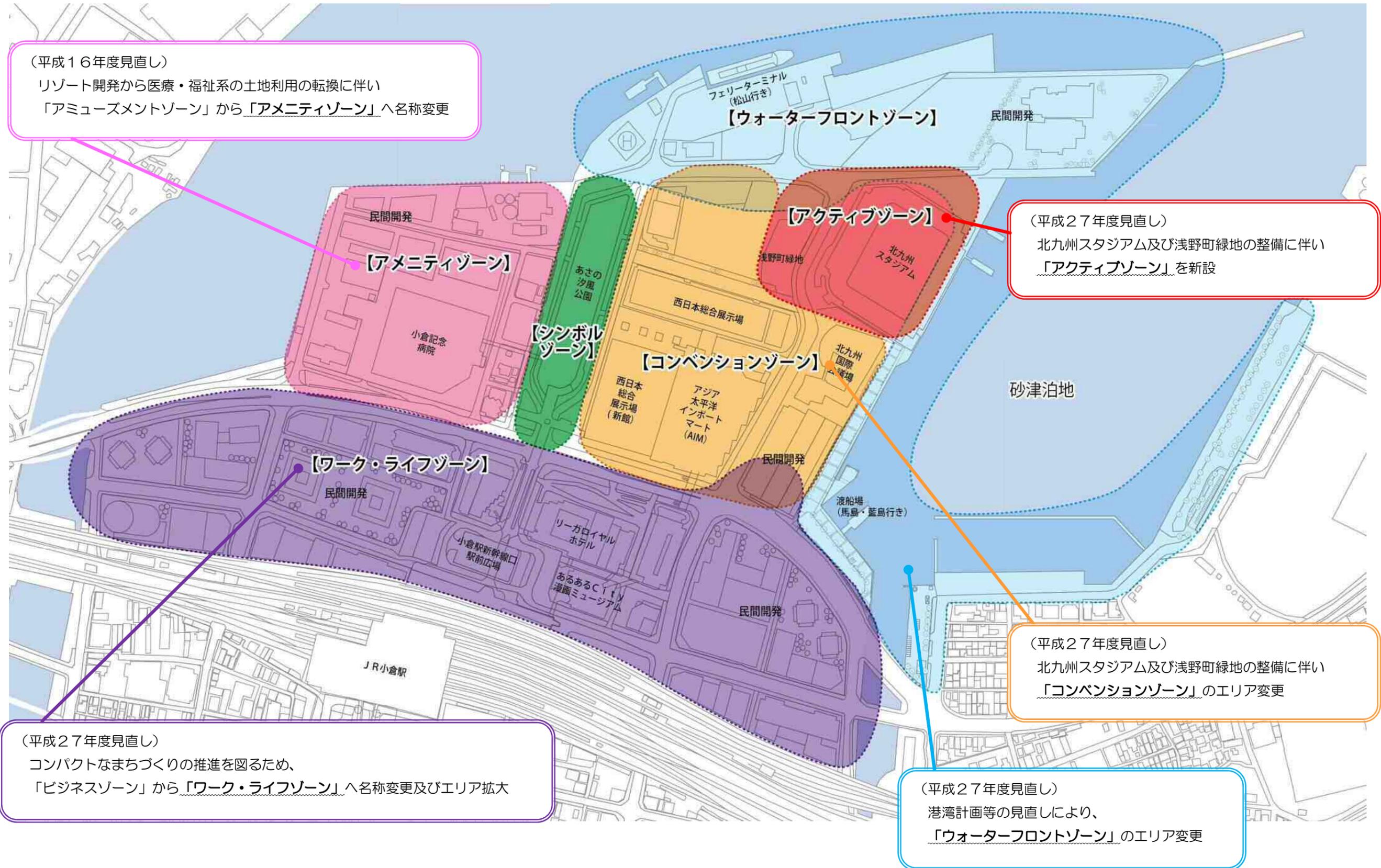
(2) ゾーニングの見直し

構想見直しの方向性や方針に基づき、ゾーニングの見直しを行った。(変更点:太字波線)



*1 **MICE**とは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称

【ゾーニング図】



「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

3. 具体的な取組み

新幹線口地区全体の賑わい創出、さらに都心全体の賑わいに広げるため、賑わい施設の整備を行い、回遊性の向上を図る。

▼賑わい施設の整備箇所



(1) 新たな集客施設

■北九州スタジアム(Jリーグ・J1基準対応・15,000人以上収容可能)

※平成 29 年 3 月供用開始予定

- ◆Jリーグ、ラグビートップリーグなどの試合、小中高生のサッカー・ラグビー大会、グランドゴルフ大会、市民への芝生開放等 多種多様なイベントの開催
- ◆スタジアムのコンセプト
 - ・みんながつどい、にぎわいを生む“海ちか・街なか”スタジアム
 - ・夢と感動を生み出す“ダイナミック”スタジアム
 - ・環境未来都市にふさわしい“エコ”スタジアム
 - ・ものづくりの街北九州を発進する“街かどショールーム”



「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

(2) 周辺施設との連携による魅力づくり

■浅野町緑地 (約 4,000 m²) ※平成 29 年 3 月供用開始予定

◆スケートボードやストリートダンス等ができる広場として、また、スタジアムや周辺施設と連携した各種イベント、ケータリングの場として利用



◆スタジアムへ来た多くの来場者が、安全で楽しく、快適にアクティブゾーンで滞在するための空間として利用が可能



(3) 歩行者ネットワークの強化・充実

新幹線口地区内の回遊性の向上、歩行者の安全性や快適性の確保を目的とした歩行者動線を設定し、スタジアム周辺に点在している集客施設を面的に結ぶことができる歩行者ネットワークの形成を図る。

■横断歩道橋 (延長 35m、幅員 8m) ※平成 29 年 3 月供用開始予定

■スタジアム外周デッキ (全長 450m、幅員 5~15m) ※平成 29 年 3 月供用開始予定

- ◆北九州スタジアムや砂津緑地 (港湾緑地)、フェリーターミナル、あさの汐風公園、あるある City など集客施設への回遊性の向上を図り、多種多様な目的で訪れた人々の交流を生み、さらなる賑わい創出を図る
- ◆アクティブゾーンへの来訪者の安全性・快適性の確保

【整備イメージ図】



■歩いてみたくなる歩行空間の創出

周辺施設を結ぶ動線上を楽しく回遊できる公共空間を創出し、滞在時間の延長を図る

◆既設の照明灯等を活用し、フラッグ広告を掲げる

◆既設の歩行者系サインを有効活用し、目的地までの距離や消費カロリーなどを表示



■砂津緑地(港湾緑地) (約 6,000 m²) ※平成 29 年 3 月供用開始予定

◆親水性を高め、海辺の魅力を感じながら散策できる空間



「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

(4) 歩行者ネットワークの形成

1) JR小倉駅からアクティブゾーンまで、空間特性を活かした2つの主動線の設定

【やすらぎルート】

(JR小倉駅から あさの汐風公園 — 西日本総合展示場南側 を経由)
身近な自然に「やすらぎ」を感じることのできるルート



あさの汐風公園



西日本総合展示場南側



「にぎわいルート」

(JR小倉駅から AIM(ペDESTリアンデッキ — 2Fガレリア) を経由)
ドキドキワクワクした「にぎわい」を感じることのできるルート



ペDESTリアンデッキ



AIM 2階ガレリア

▲歩行者ネットワーク(主動線)

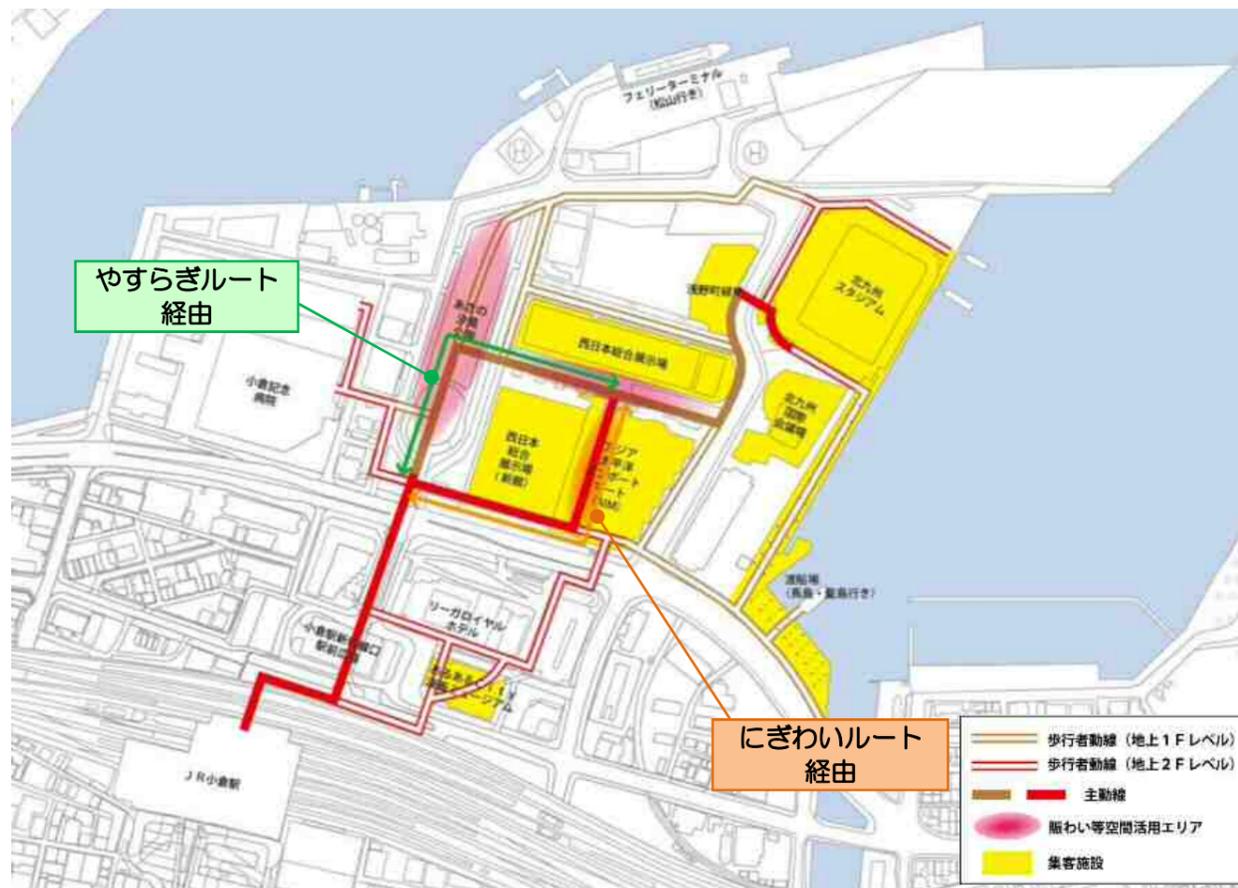
「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

2) 主動線を活用した歩行者誘導対策

北九州スタジアムでのイベント・試合開催時には、多くの来場者（北九州スタジアム：最大15,000人以上収容可能）が見込まれるため、「にぎわいルート」と「やすらぎルート」の二つの主動線を基本とした歩行者誘導と併せて、集中による混雑を防ぐための歩行者誘導対策を実施する。

① イベント・試合開始前の歩行者誘導

開始前の歩行者の流れは、時間的及び面的にも分散するものと想定されることから、主動線である「にぎわいルート」及び「やすらぎルート」への誘導を図る。



▲開始前における歩行者の動線

② イベント・試合終了後の歩行者誘導

終了後の歩行者の流れは、試合終了直後の集中による錯綜を回避するため、主動線に「海岸ルート」を加えた3つのルートへ分散誘導する。

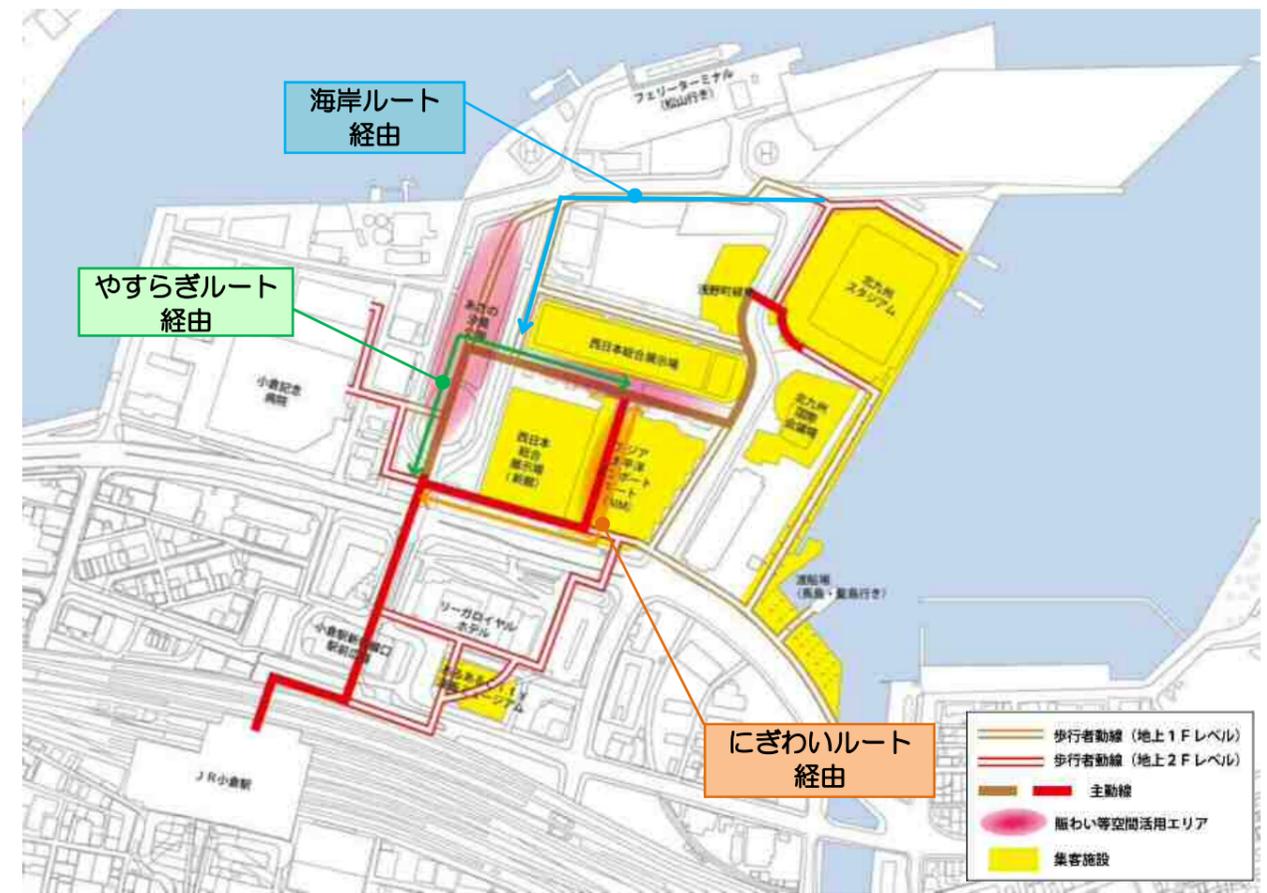
◇ 北側スタンド利用者

→ 「海岸ルート」へ誘導

◇ 南・西・東側スタンド利用者

→ 浅野町緑地 を経由したのち、

「にぎわいルート」及び「やすらぎルート」へ誘導



▲終了後における歩行者の動線

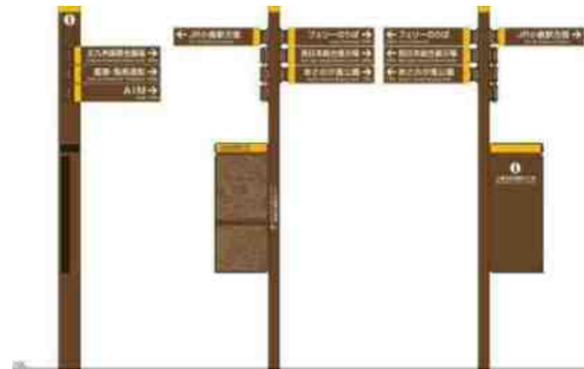
「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

3)歩行者系サインによる誘導

【新幹線口地区における歩行者系誘導サインの方針】

- ① 既存の歩行者系サインを活用し、掲載内容を更新する。
- ② 回遊性を高め、目的地へ安全に誘導するため、主な分岐点に歩行者系サインを増設する。
- ③ 駅から目的地までの確に誘導するため、統一性、連続性の確保に向けた取組みを進める。
- ④ 主要案内表示の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）に取り組む。

② 歩行者系サインの増設



④ 案内表示の多言語化



- 凡例
- : 既設サイン
 - : 新設サイン

- 歩行者動線 (地上1Fレベル)
- 歩行者動線 (地上2Fレベル)
- 主動線
- 賑わい等空間活用エリア
- 集客施設

<ペDESTリアンデッキ>

- ② 歩行者系サインの増設
- ③ デザインの検討



<エスカレーター下>

- ① 掲載内容の更新
- ② デザインの検討



<ペDESTリアンデッキ>

- ② 歩行者系サインの増設
- ③ デザインの検討



① 掲載内容の更新

<JR 小倉駅構内>

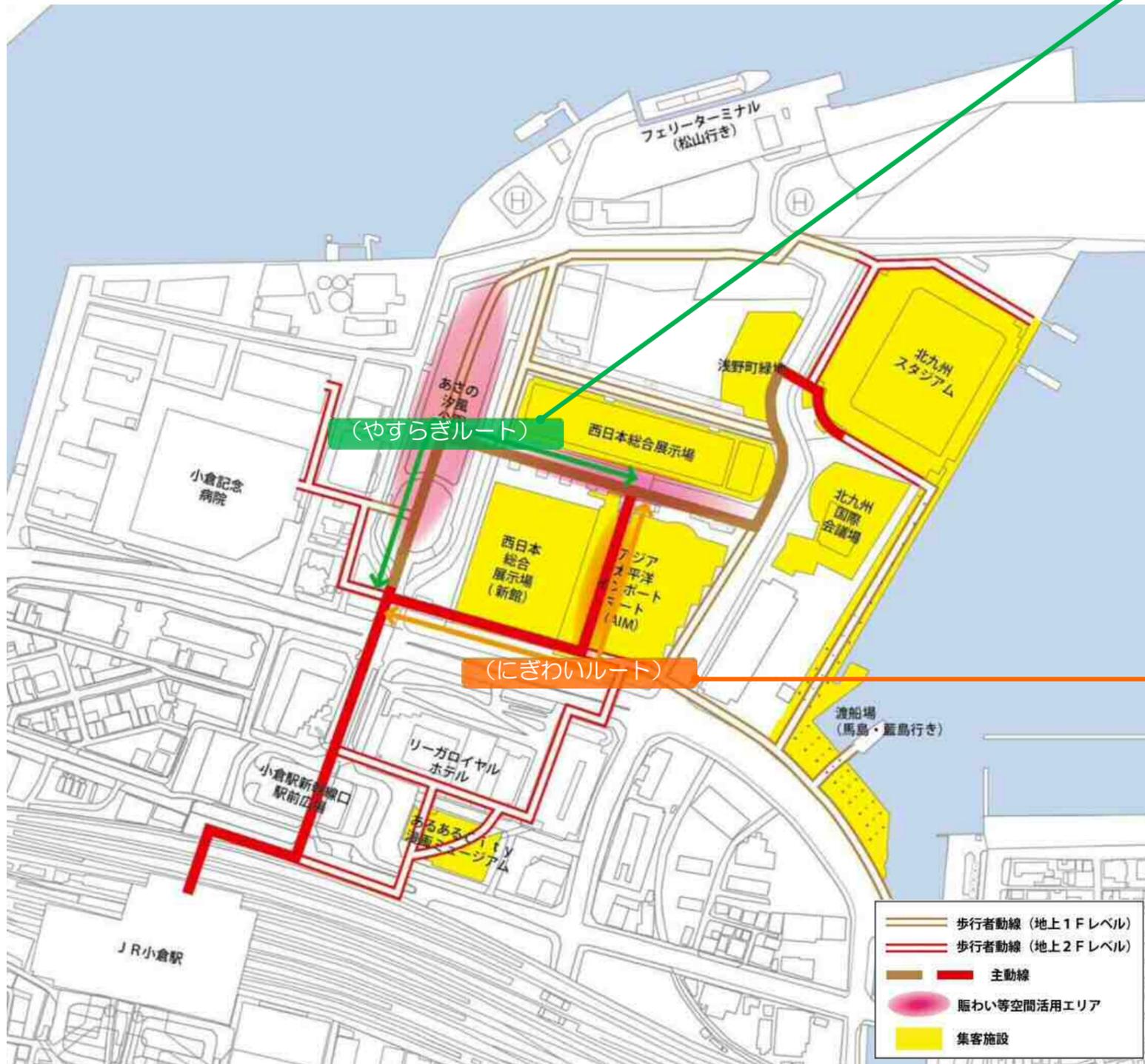


<ペDESTリアンデッキ上>



「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

4) 歩行者の回遊性向上や主動線への誘導のための取組み



▲主動線におけるにぎわいづくりに向けた取組み

【やすらぎルート】 ＜あさの汐風公園～西日本総合展示場 南側＞

- スタジアムや西日本総合展示場でのイベント時の休憩空間
(オープンカフェ、露店等の出店)
- マルシェやフリーマーケットの開催

＜あさの汐風公園 活用イメージ＞



＜西日本総合展示場 南側 活用イメージ＞



【にぎわいルート】 ＜AIM ガレリア (屋内)＞

- 「ギラヴァンツ北九州」や対戦チームのPR
(旗、垂れ幕・横断幕、ポスター等の掲示)
- 地域の歴史・文化や地場産品に関するPR

＜AIM 2階ガレリア 活用イメージ＞



「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

(5) 周辺の交通アクセス環境を考慮した車両交通対策

西日本総合展示場やあさの汐風公園など既存の集客施設において、多くの来場者が見込まれるイベント開催時は、新幹線口地区の主要道路である国道 199 号ほか、周辺の道路においても渋滞が発生している。新たに整備する北九州スタジアムは、新幹線停車駅である JR 小倉駅から直線距離 500m、徒歩約 7 分と全国 1 番の立地条件であること、また、エコスタジアムとして環境負荷の低減につながるよう、公共交通機関を利用した来場を基本としており、市民への PR を行っていくこととしている。

一方で、高齢者や子ども連れのファミリー層など、車の利用が必要な方の来場も見込まれることから、周辺の交通環境への影響を最小限に抑えるため、国道 199 号以北における駐車場の配置状況及びイベント・試合開始前および終了後の集散状況を考慮した渋滞対策の方向性を示す。

1) イベント・試合開始前の車両流入動線

各方面から、地区内の各駐車場までの車両動線が短くなる経路へ誘導する。



▲開始前における流入車両の動線

2) イベント・試合終了後の車両流出動線

地区内にある駐車場から流出する車両が安全に移動できる経路へ誘導する。



▲終了後における流出車両の動線

(6) 交通アクセス環境の向上に向けた対策

既存の集客施設におけるイベント開催時の交通状況やスタジアムでのイベント・試合開始前、終了後の状況を想定し、国道 199 号との交差点（国際会議場入口、小倉駅新幹線口、浅野三丁目）における交通処理検討を行った。

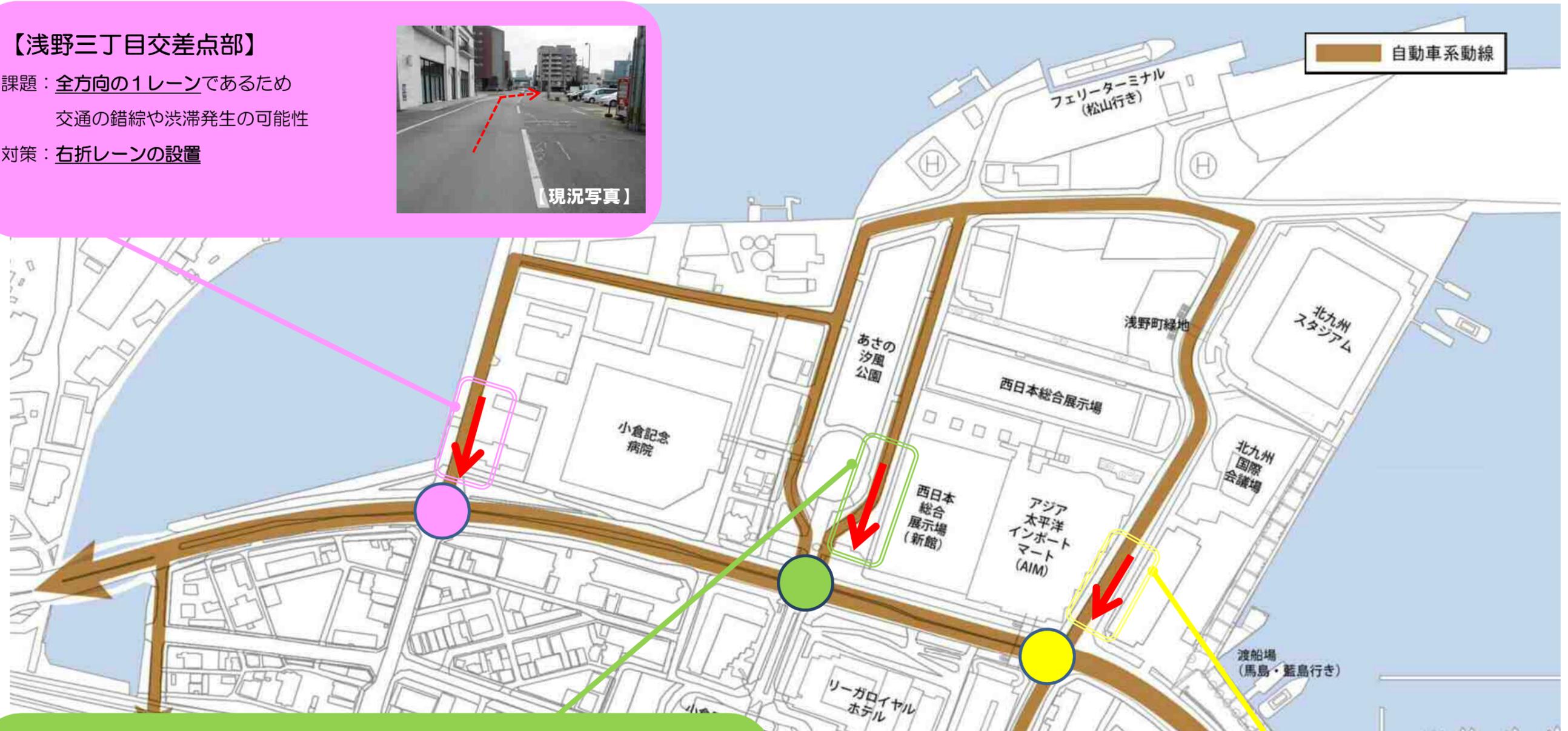
「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成27年8月改訂)

▼主要交差点における課題と対策

【浅野三丁目交差点部】

課題：全方向の1レーンであるため
交通の錯綜や渋滞発生の可能性

対策：右折レーンの設置



【小倉駅新幹線口交差点部】

課題：右折レーン長の不足、容量不足による
右折・直進車の混在

対策：車線運用の変更(右折レーン2・直進左折レーン1)、
右折レーンの延伸



【国際会議場入口交差点部】

課題：右折レーン長の不足による
右折・直進車の混在

対策：中央分離帯撤去により右折レーンの延伸



「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成 27 年 8 月改訂)

(7)都市再生に向けた民間活力の導入

1)土地利用の現状



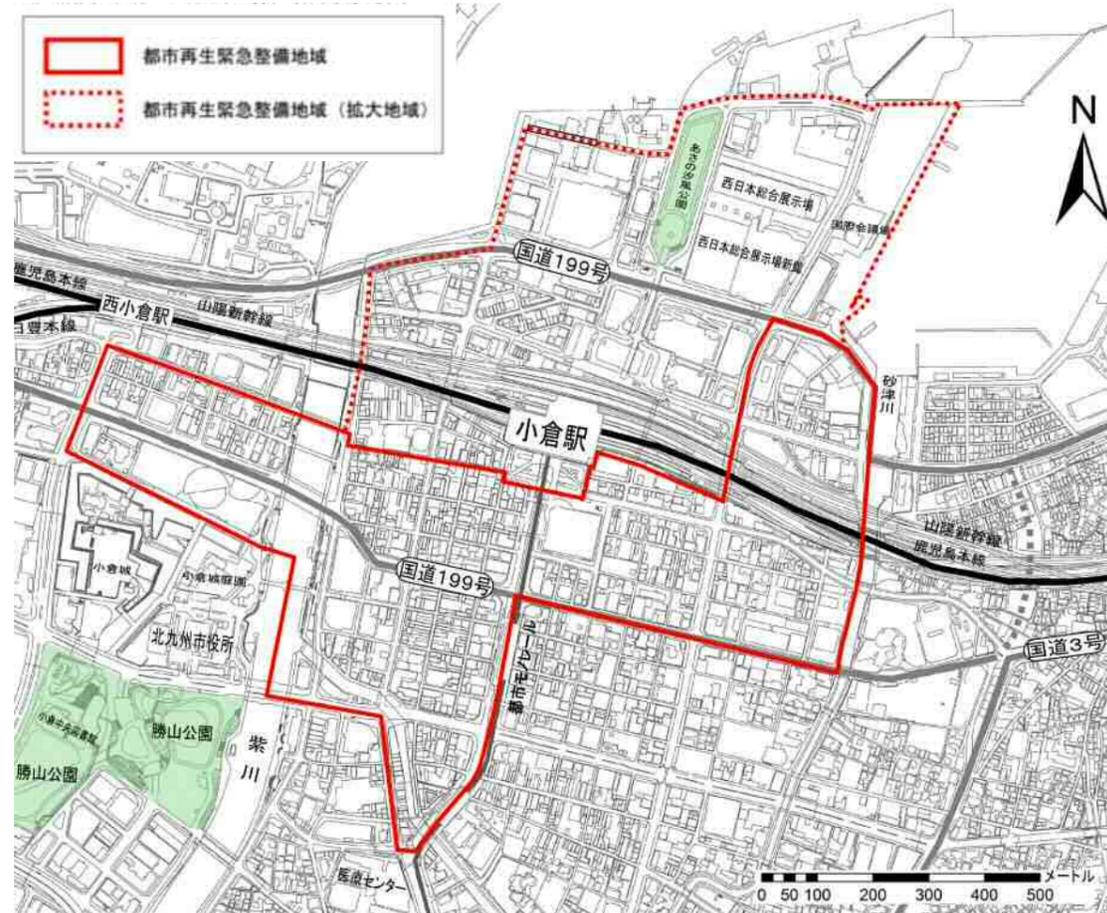
土地利用の現況	課題と対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 核施設となる大規模建物が立地しているが、各施設間の機能的なつながりが低い 比較的小規模な平面・立体駐車場が整備され、特に西側街区においては、未利用地を時間貸し駐車場として利活用している 小規模な建物が立地し、建物用途の混在と密集市街地が形成されている 街なか居住を推進するための住居やMICE開催に不可欠なホテル等の都市機能施設が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 機能を補完する施設の立地を含めた、各核施設の機能的な連携を図る 建物用途との調整を図りながら、面整備等による土地利用の明確なすみわけと、駅前地区として風格のある市街地整備を目指す 都市機能施設の集約や土地の高度利用化にむけ、民間開発の促進を図る

▲土地利用等の現状 (平成 26 年 10 月調査時点)

「小倉駅新幹線口地区整備構想」(平成27年8月改訂)

2) 都市再生緊急整備地域の拡大

官民が連携して市街地の整備を強力に推進し、さまざまな企業・人達を呼び込むことができるような魅力ある都市拠点の形成のため、小倉駅周辺に指定されている『都市再生緊急整備地域「小倉駅周辺地域」』の区域を新幹線口地区に拡大(平成27年7月24日政令公布)。



・・・ 都市再生緊急整備地域とは・・・

都市再生緊急整備地域において、民間事業者が0.5ha以上の都市再生事業(※1)を行う場合、

- ①自由度の高い都市計画の提案ができる
- ②提案から都市計画決定・事業認可までの期間を大幅に短縮できる

さらに、民間都市再生事業計画の認定(※2)を受けた場合、

- ③事業立ち上がりの金融支援、公共施設整備の支援等でバックアップが受けられる
- ④税制上の優遇措置が受けられる

※1 公共施設の整備を伴う面的整備事業で、都市再生緊急整備地域内で行われる一定のもの

※2 地域整備方針に適合し、都市の再生に著しく貢献するものと国土交通大臣に認められた1ha(一体的に複数の事業を行う場合は0.5ha)以上の都市再生事業

4. 今後の取り組み

(1) 用途制限の見直し

本市では、今後の急速な人口減少と超高齢化が想定されるなか、地域の活力を維持・増進し都市を持続可能なものとするため、また、都市全体の構造を見直し、コンパクトなまちづくりを進めていくため、「立地適正化計画」の策定に取り組んでいる。

新幹線口地区においては、立地適正化計画を踏まえ、より一層のまちの活性化に向けて、新たな土地利用転換が見込まれる区域において、土地利用に関する規制のあり方を見直しを検討し、都市的な土地利用を促進する。

(2) より安全で快適な歩行空間の創出に向けた検討

本構想や都心集客アクションプラン等の取り組みにより、新幹線口地区への新たな集客や民間開発の動きが期待される。

今後の民間開発の動向を踏まえ、歩行者の安全で快適な歩行空間の形成のために、ペDESTリアンデッキの延伸等を検討していく。